



子どもが動く
子どもの心が動く加美小へ



ふるさとを愛し、心豊かに たくましく生きる 中央っ子の育成
～未来に向かって輝く子ども～

加美小学校の教育理念： 「幸せを創り出す力」を子ども達に

美しいなでこの花、古くから校歌に歌われているこの花は、漢字で書くと「撫子」と書きます。「撫でたいくらいかわいい子」という意味が由来という説もあります。この学校の花がなぜなでこのなのか、その理由を記したものは残っていません。しかし、なでこは加美小学校の児童をたとえていることに間違えはないでしょう。そしてこの花を学校の花にすることで、きっとここに集うすべての人が、地域が、加美小学校の子を慈しみ愛情を注いでいることを伝えているのだと思います。

今、時代は大きく変わりつつあります。しかし、「なでこ」に思いを託した時代から私たちが子どもたちの将来に望むことはひとつです。……「**幸せになってほしい**」

しかし、一人だけが幸せになることを願っているわけではありません。本当の幸せは、社会全体の幸せの中にあります。幸せが誰かの不幸の上に成り立っているのではいけないのです。だれにとっても幸せである社会を創ることは、人類の究極の願いです。それは、もはや人類の問題にとどまらず、環境を含め、生きとし生けるものすべてにとって「よりよき」ことが、人類にとっての「よりよき」社会に必要なことは、明白なのです。



わたしたちは、子どもたちが人から与えられた「幸せ」をただ享受するのではなく、自分から学び考え、そして他人の気持ち理解し、自分の良さを生かしながら、周りど協働して「よりよき」生活を創り出し、「よりよき」社会を創り出していき、そんな人に育てたいと考えます。それは未知なる未来を切り拓くチャレンジャーを育てることであり、自分の良さを最大限に生かし、自分の人生を「幸せ」に導く内なるリーダーを育てることであり、ほかの人や社会や環境と関わり合いながら、社会の一員として活躍する「社会人」を育てることです。

家庭、学校、地域がともに子ども達のために手を取り合い子ども達の「幸せを創り出す力」を育ててまいります。

加美の子よ、大志をいだけ



加美小 幸せになる5つの習慣

目標をもって始める

成功のすべての基本となります

主体的に行動する

最初に自分が動くことが大切

みんなにとって大切なことから始める

そうすると、信頼される人になる

自分が先にわかってあげる

先にわかってあげるとわかってくれる

WinWinの考えをもつ

だれにとってもよい考えを見つける

「幸せを創り出す力」を子ども達につける加美小の取組

学力（楽力）向上の取組



加美小学校では、将来につながる学力の獲得をめざし、低学年で基礎基本の充実を図ると共に、高学年では、自ら学習を楽しむ(楽力)、自主的・計画的に学ぶ力をつけることを目標に取り組んでいます。

■ブックトーク・・・月に1回程度、週末宿題を読書にし、月曜日に各学年の発達段階に応じて友達に読んだ本を紹介する活動をしています。

■宿題の出し方の工夫・・・低学年では、出された宿題をきちんとすることを目標にしていますが、学年があがるにつれ、自分の苦手を意識し自分で学習する力をつけるために、「けてぶれ学習」（計画→テスト→間違い分析→練習）に取り組んでいます。また、「ミッションかならずポッシブル」（高学年）では、自分の苦手克服や学習時間など、自分で目標を決め、それに向かって頑張る学習をしています。

■ICT 授業・プログラミング学習 C 分類・・・タブレットを活用した授業を展開したり、タブレットドリルを行うことにより思考力の向上を目標に、学校独自のプログラミング C 分類に取り組んでいます。友達とトライ&エラーを重ねながら、与えられた課題にチャレンジしています。タブレットを使った学習も積極的にしています。

■パワーアップウィーク・基礎学力向上週間・「説明する力」の向上・・・日頃の授業から思考力をつけたり説明する力を伸ばしたりする活動を重視しています。また、年間数回にわたって集中的に基礎学力の定着を行っています。



人とつながり幸せを創る人間力の育成

将来生きていく力を育むために、子ども達の自主性を伸ばし、他の人とつながって困難な課題にも立ち向かう力をつけることを目標に取り組んでいます。

■加美♡幸せ人間学・・・コミュニケーションが苦手だったり、自信がなかったりする現代の子ども達に、幸せを創るために必要なコミュニケーションスキルの授業や、性教育、人権教育、メンタル（レジリエンス）教育等を、テーマを設け行っていきます。

■挑戦科・・・「SDGs」等を題材にし、4年生～6年生が縦割りになって様々な現代の課題を参加型で学習する挑戦科を行っています。1～3年生でも縦割りで学習を行います。

■ともだちの日・フレンドリー集会・・・リーダーである6年生が劇や動画などで工夫して全校に今ある課題を呼びかける活動を行い、同じ日にあわせ「学級力アンケート」を実施し、自分達の学級の課題を明確にし、クラスで話し合っ解決に向けています。またいじめ問題を調査する「にこにこアンケート」を行っています。令和5年度から始めるフレンドリー集会は、高学年児童が主体的に進めます。



■リーダー育成・5つの習慣・・・高学年ひとりひとりがリーダーとして育つように、自主性、主体性を伸ばす特別活動の時間を大切にしています。集団のリーダーとして大事な心構えを「5つの習慣」というスローガンにまとめ、取り組んでいます。



■地域を学んで探究的に学習する力をつける・・・自分達がふるさとについて調べ自分にできることをアプローチしていく「総合的な学習の時間」を大切に、自ら課題にチャレンジしたり、地域の方達と協働したりして、自分達にできることを探り、実践していく力を育てていきます。地域の方に教えていただく「ふるさとクラブ」も開催します。

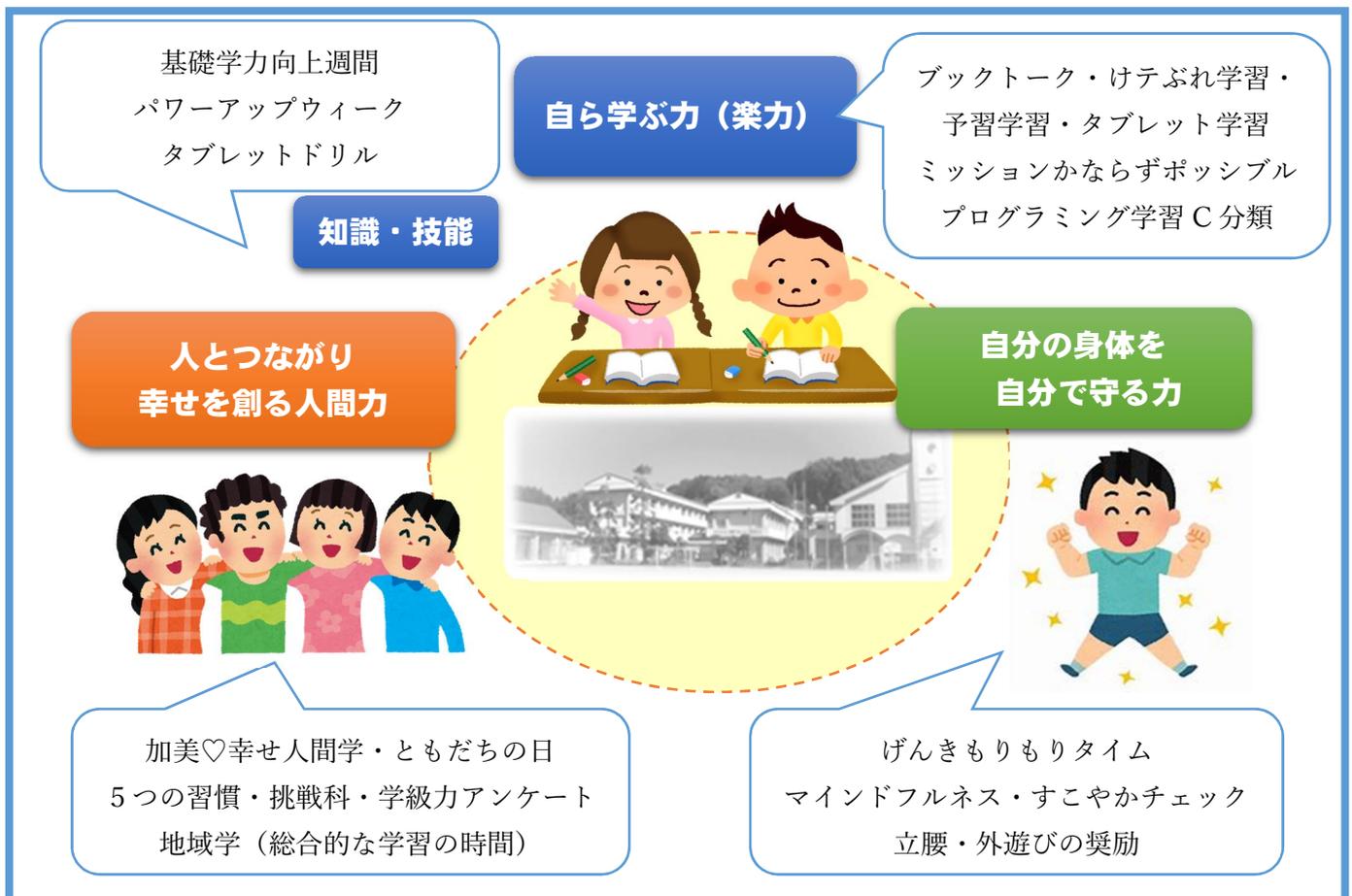
自分で自分の身体を守る力の育成

自分で自分の身体を守るために、「言われるからする」のではなく、正しい知識を身につけて実践できる子どもに育てることが目標です。健康教育や姿勢体幹体操、性教育などの指導の他にも以下の取組をしています。

■元気もりもりタイム・外遊びの奨励・・・小学生の時期にコミュニケーションを学んだり、身体がしっかり成長したりするために「遊び」が大切な時期です。放課後外で思いっきり遊ぶことが減った児童に対し、太陽の光（セロトニン）を浴びて、元気な心を育てることを目標に外遊びを奨励しています。

■立腰・マインドフルネス・・・普段からしっかり腰を立て正しい姿勢をすることを指導すると共に、昼休みの後、集中して午後からの授業に取り組むための準備の時間を設けています。この時間にはマインドフルネスを行い、全校一斉に自分の呼吸に意識を集中して、いらいらした感情や落ち着かない感情とうまくつきあうことを目標にしています。

■すこやかチェック・・・自分の生活習慣を見つめ直し、保護者の方とともに改善していく取組を行います。



保護者の皆様とともに子ども達の幸せをめざして

咲かそう幸せの花 つなげようみんなの笑顔 よろこびを紡ぎ織りなす加美小学校



—子ども達の夢を育て
生きる力を育て—
一緒に実現させましょう

自分で学べる子に

おうちでほめよう

「いっしょに 宿題しようね」
「えらいね 自分から始めたね」
「自分で考えたの？ えらいね」
「まちがえても 自分で直せてすごい」



自分の良さを活かす子に

おうちで語りかけよう

「あなたのいいところはね・・・」
「ありがとう うれしいよ」
「すごいなあ これ得意なんだね」

人とつながれる子に

おうちで話そう

「自分からあいさつできる子になろうね」
「ありがとうを たくさん言おうね」
「ごめんなさいって 言えるかな」
「役にたてたんだね すごくえらいよ」

～保護者のみなさまと ともに～

保護者の皆様へ児童が幸せへ向かう「5つのお願い」

- ・やらせて、ほめる、認める、そして自信をもたせてください。
- ・「自分は愛されている」ことを伝えてください。
- ・感謝する心、相手の気持ちを考える心を育ててください。
- ・失敗を悔やみ過ぎない心、許す心、前向きな心を育ててください。
- ・言いたいことをきちんと言わせて、聞いてあげてください。

～保護者も 学校とともに～

今年度のPTA スローガン

「すべては子ども達の笑顔のために
～みんながつながり

互いが認め合う～」

令和5年度PTA 会長

村上 智允

第三次美咲町教育振興計画より「自ら学び 共につながり みんなの夢を育む 美咲の人づくり」

振興計画では、「子どもは町の宝」として、「自立」「共生」「郷土を愛する心」を育むことを目標に、児童生徒が地域の中で未来や将来を楽しみに、学び方や生き方を身につけられるように、キャリア教育を中心に地域活性の核としての魅力ある学校づくりを推進していくこととなっています。（詳しくは美咲町 HP をご覧ください）

加美小コミュニティスクール

加美小学校では、学校運営協議会を設け、地域や保護者の皆様からなる学校運営協議会の委員の皆様から、学校経営のご承認をいただいたり、ご助言をいただいたりしながら、「地域とともにある学校」をつくってまいります。



また、地域学校協働活動では、地域と共に子ども達の学びや成長を支えていきます。今後はもっともっと地域とつながる学校を目指しています。

小中一貫教育『中央っ子♡学園』

中央中学校、加美小学校、美咲中央小学校は、小中一貫教育校です。小学校から中学校への教育の連携や学びの連続性を意識し、小学校と中学校がともに児童理解を図ったり、指導法の研修をしたり、職員や児童の交流を行ったりすることで中1ギャップの解消を図ります。学校教育目標を3校で統一し、教育をすすめています。

